

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻
博士課程 1 年次生
野上 聡

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受け、韓国 (Seoul) において開催された The 2nd Workshop for Korea-Japan Young Scientists on Pharmaceutics (2018 KJYSP) へ参加し、自身の研究成果を発表したので報告する。



写真1 Sookmyung Women's University



写真2 学会会場にて

2. 学会について

Workshop for Korea-Japan Young Scientists on Pharmaceutics は、両国の若手研究者の製剤学と関連他領域との交流を核に、情報交換の場を創り出すことを目的として設立された。今回での2度目の開催を迎える2018 KJYSP では、薬物代謝や薬物動態、DDSなどの領域をメインテーマとして議論が行われた。

3. 学会の様子

発表会場では、口頭発表とポスター発表でスペースが分かれており、私は”Preparation of jelly formulation with nano-composites structure containing curcumin”という演題でポスター発表を行った。韓国人の参加者から、実験内容や研究結果、今後の方針について意見を求められ、英語での返答を要した。初めての英語での発表であったため、予め準備して臨んだが、質疑に対し上手に答えられない部分が多くあった。言葉だけで伝えようとするのではなく、身振り手振りなどのジェスチャーを交えたり、ポスターに掲載した図やグラフを示したりすることの重要性を感じた。他者の発表を拝聴したが、領域が異なることや私自身のリスニング能力の乏しさから、聞き返すことが多く、英語能力不足を痛感した。一方で、興味深い内容を研究している学生や、流暢な英語を口にする学生が多く見受けられ、研究に関

しては勿論だが、語学学習に関しても今後より一層励みたいと感じた。

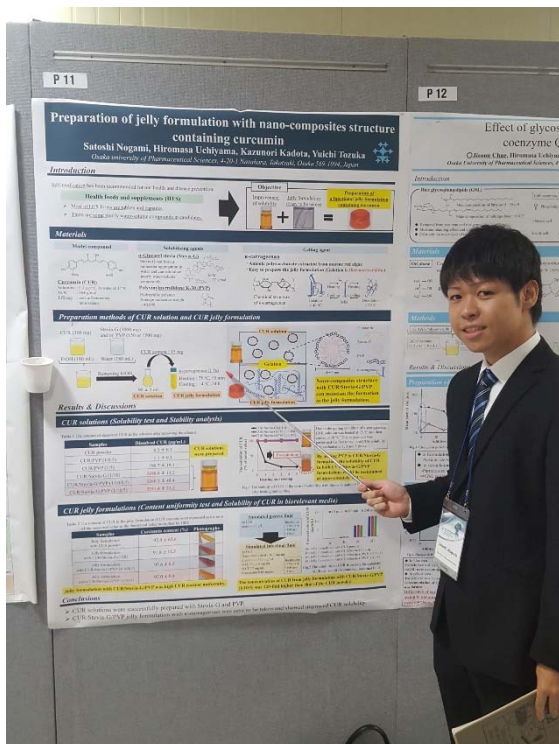


写真3 発表ポスター前にて

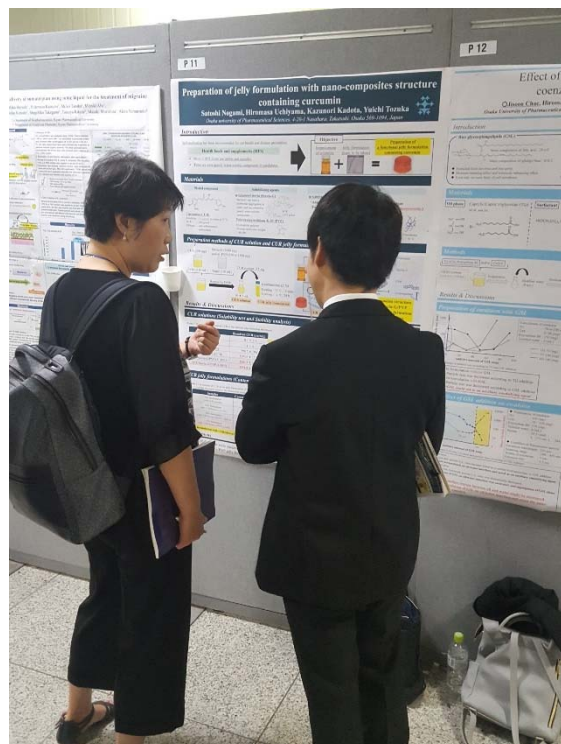


写真4 質疑応答の様子

4. 韓国について

学会の空き時間を利用し、景福宮（キョンボックン）を訪れた。景福宮とは、1395年に創建された朝鮮王朝の正宮であり、王の政務の場、王の生活の場として知られる。景福宮の「景福」とは、王とその子孫、すべての人民（百姓）が太平の御代の大きな幸せを得ることを願う、という意味が込められている。生憎の天気であったものの、訪れる観光客の数は多かった。

異文化の料理を口にしたことから、タッカンマリという韓国料理をいただいた。タッカンマリとは韓国語で鶏一羽という意味で、長ネギやニンニクなどの香味野菜と一緒に鶏を一羽丸ごと煮込み、スープとともに味わう鍋料理となっている。特性のタレも並べられていたが、鶏の出汁がしっかり効いており、私はそのままの味付けのほうが好みであった。



写真5 景福宮にて



写真6 タッカンマリ

5. 最後に

この度、国際交流基金助成事業の助成金により、The 2nd Workshop for Korea-Japan Young Scientists on Pharmaceuticals に参加させていただくことができ、自身の研究に関連する知識を深めるとともに、国際学会で発表するという貴重な経験を積むことができた。また日常的な場面においても、英語で自分の考えや要望を示したり、提案したりすることができなかったことや、相手の話す英語が聞き取れなかったことが多々あり、自身の英語能力の低さを再認識した。この悔しさ、もどかしさを忘れず、帰国後の語学学習に活かしていきたい。

最後に、このような機会を与えてくださった、戸塚裕一教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝の意を表し、報告とさせていただきます。